

La Informilo de Nagoja Esperanto- Centro

センター通信 283 15 mar 2017

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro
461-0004名古屋市東区葵一丁目26-10ユニール新栄301号
<http://homepage2.nifty.com/nagoja-esperanto/> <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

第66回東海エスペラント大会の案内

- 時** 2017-05-27 (土) 受付13:30-14:00
05-28 (日) 16時頃まで
- 会場** 愛知県青年の家 (444-0802 岡崎市美合町並松1-2)
ただし、27日午前は、遠足、詳細未定
- 主催** 東海エスペラント大会準備会 (名古屋エスペラントセンター協力)
- 主題** あなたが主役で「エスペラント体験」交流

主なプログラム

- 27日・自己紹介、エスペラント体験紹介
講演：Fejsbukoj kaj Esperanta vegara Kafejo」アレクサンドラ・綿貫
- 28日・「北朝鮮訪問記」山田義
朝鮮昔話「春香伝」、紙芝居 山田 義
「エスペラント聖書訳の主な歩み」スライド、猪飼吉計

参加費 1000円

宿泊予約 (要予約、予約先はこの下に表記。以降は空きがあれば受付)
食事代、一泊3食 4500円
ただし、夕食・朝食・昼食不要の人は、順に700円・450円・650円減額

宿泊の予約は、以下の電子メールか電話にてお願いします。
電子メール：yosimi51@mf.ccnw.ne.jp 電話：090-3567-0023 (後藤好美)

ザメンホフは いくつかの言語ができたか



昨年、JEI制作の「エスペラントの今」の第7編（La Revuo Orienta 2016年12月号参照）として、エスペラント訳聖書についての情報を編集部から求められたとき、まったく予想していない質問を受けた。ザメンホフがヘブライ語を解した、という言葉の根拠が不明だがどうなのか、というのである。

驚き桃の木山椒の木とはこのことである。ザメンホフは旧約聖書を原典から訳さなかったとでもいうのか。

そのとき、残念ながら根拠こそ示すことはできなかった。自明すぎて根拠を示すまでもなかったというのが正しかった。

その後、信頼すべき資料を見つけた。

Boris Kolker の *Vojaĝo en Esperanto-Lando* の193頁には、ザメンホフについてのいくつかの疑問について、いとうかんじやバランギャン級の学者が答えるという仮想のインタビューを載せていて、その質問のひとつが、ザメンホフが解した言語とは、である。

母語はロシア語とイディッシュ語、4歳からヘブライ語を習い、14歳でワルシャワに一家が移り住んだので、ポーランド語を使い始め、ドイツ語とフランス語とは子供時代に習いだし、とくにドイツ語は堪能であった。そののち英語を習いだした。ラテン語と古典ギリシア語を深く学んだ。他には、イタリア語とリトアニア語をいくぶん解した。エスペラント発表後は、スペイン語やその他の、すくなくともエスペラントの教本が出た言語は、ある程度理解した。

さて、回答者が言及していない、ザメンホフが理解できるもうひとつの言語を付け加えるならば、ザメンホフは確かにエスペラントも理解できたはずである。回答者はそのことを知っていたはずだが、なぜそのことに言及しなかったかは、謎のままである。

猪飼

以下はセンターのホームページから転載。「今年」「来年」などの日時に関する表現は、ザメンホフ祭の行われた2016年現在のままです。

2016年12月17日（土）
名古屋エスペラントセンター（NEC）主催の
ザメンホフ祭

が開催されました。参加者は17人で例年より若干少なめでした。場所はNEC事務所で、ふだんは会議や学習会などに使用していますが、20名程度の参加にはちょうどよい広さなので、ここ数年ザメンホフ祭会場として使用しています。自前の事務所で集会ができるのはありがたいことです。

主なプログラムは次の通り。

電子紙芝居 “Gon-Vulpo”。2004年に第91回日本エスペラント大会が犬山市で開催された際に、NECは “Gon-Vulpo kaj aliaj rakontoj” を記念に出版しました。そのお話 “Gon-Vulpo”（ごんぎつね）を、紙芝居風に、プレゼンテーションソフトを使ってプロジェクタで映し、山田義さんが朗読しました。絵は市販の紙芝居のものを利用しましたが、元の16枚の絵を単に静止画として映すだけでなく、多少の動きをつけ工夫を加えてアレンジしました（山田さんの技術です）。「電子紙芝居」では絵を大きく見せることができるため、大勢が集まるときには有効だと思われま。

本の紹介では、三人の方をお願いして語っていただきました。鈴木善彦さんは、NECが1976年に出版した “Por Pli da Kantado” を。これは、今年7月に亡くなった磯部晶策さんが編集責任者となって出版された歌集で、鈴木さんはその編集グループの一員でした。またこの歌集は今回の参加者には記念品として無料で頒布されました。続いて伊藤俊彦さんは時事問題を



扱った “Krimeo estas nia — Reveno de la Imperio”、と作家 Trevor Steeleの自伝 “Konvinka kamuflaĵo” の二冊を、そして前田可一さんは短編小説集 “La Viro el la Pasinteco” を紹介しました。なお、これらについては当日配布したパンフレットに書評を掲載しています。

エスペラントによる10分間スピーチでは、猪飼吉計さんは “La Nova Testamento en la greklingva originalo”、堀田裕彦さんは “Pri KER (CEFR)” というテーマで話して



いただきました。KER (Komuna Eŭropa Referenckadro) は英語で CEF R (Common European Framework of Reference)、日本語では「ヨーロッパ言語共通参照枠」といって、ヨーロッパ全体で外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられるガイドラインです。エス

ペラントにもこのガイドラインが適用され、レベルを測定するためのKER試験が世界各地で実施されはじめている、とのことでした。

「世界エスペラント大会の楽しみ」では、黒柳吉隆さんが過去三回の世界エスペラント大会（ハノイ、レイキャビク、リール）に参加した際に撮った動画を見せながら、大会の主なプログラムの魅力や参加者の交流の様子を紹介しました。来年の世界大会はソウルにて開催なので、大勢の参加が期待されます。

最後に、磯部晶策さんを偲びつつ、歌集“Por Pli da Kantado”より、磯部さんが訳詩した“Ekirinte al Bembaŝa”というボスニア民謡を全員で合唱しました。

続く第二部は場所を居酒屋「ホームメイドキッチンぼろ」に移し、9人が引き続き歓談しました。

今回のザメンホフ祭では比較的少人数であったため和気藹々とした雰囲気でしたが、本当はもっと沢山の人の参加してもらいたかったと思います。ほとんどの参加者が常連であった中、初めてNECのザメンホフ祭に参加してくださった方がお一人あり、ありがたいことにこれを機にNECにも入会して下さいました。

来年のザメンホフ祭は、今までとはやや趣を変えた催しにしたいと企画担当者（山口眞一）は考えています。

北朝鮮とエスペラント

2016年11月、北朝鮮へ北東アジア情勢の研究者7人にくっついて行ってきた。旅程には現地の学者たちと学術意見を交換する時間もある。首都ピョンヤン (Pjonjango) ではプロテスタントの教会を訪問したい、エスペランティストに会ってみたい、と引率者を通して現地の旅行会社に申し入れてある。運賃や滞在費を含めて8日間で15万円ほどかかるという。実際には20万円ほど使った。今回の引率者は北朝鮮へ渡航経験のある人だ。

教会訪問とは、金日成の母親が通っていた教会を今に引き継ぐ教会堂へ行けるとのこと。しかし、エスペラントについては現地の旅行会社は何も知らないし、分らないとのことだ。

我が外務省のホームページで旅行先の安全などを知らせるページがあり、北朝鮮についてはその国の全地域に渡航を控えるように書いてある。

入国するにはビザが要る。朝鮮国際旅行社を通して査証申請を整えた。国交のない日本からはペキン経由でピョンヤン入りが多いようだが、今回は11月の初め中国の「瀋陽 (しんよう・沈阳・シェンヤン・Senjango) に一泊してピョンヤンへ。



行く前の旅程表には、ピョンヤンで個人宅や学校などを訪問できるので、家の人との歓談や学生の発表などの後、ちょっとした品物、お菓子とか百均の文房具なども持って行くのもいいだろうと書いてあった。私は若い人に会うならばと、自分で考えた。きれいな日本の使用済み切手を数枚ずつ入れた小さな透明の袋を用意した。その中には前川治哉さんが発行しているエスペラント文字の入ったフレーム切手の古切手も入れた。受け取った人が Esperanto-Kongreso などという文字に興味を持ってエスペラントに関心を持つきっかけにでもなればと思ったから。

教会へ行くのだから記念としてエスペラント訳の聖書をおいて来よう、ということでエスペラントと日本語が並んだマタイの福音書を1冊トランクの底に入れた。教会で礼拝後にでも牧師に記念贈呈、そして、できれば朝鮮語の聖書を買って来たいと、考えた

予習のためにと、北朝鮮の観光ガイドの本が手に入った。観光宣伝社・2014年発行の「朝鮮観光」朝鮮民主主義人民共和国国家観光総局という日本語でカラーの193ページの本だ。その中に、「平壤市中心部案内図」という観光地図がある。市内を大きく流れる大同江という川があり中洲にはサッカー競技場もあることが分かる。その近くに鉄道の平壤駅、その広場を出て斜め左へ行くと私たちが4泊することになっている平壤高麗ホテル (ピョンヤン・コリョ・ホテル) がある、その手前に「朝鮮切手博物館」を見つけた。特段の興味ではないが切手の博物館も時間があればホテルからすぐだから寄って

みたい。今手元にある、世界中の切手や封筒をエスペラントを使って集め図版にしたA4の分厚い収集本を持っていくことにした。八巻信夫の *Kovertoj tra la Mondo* というフルカラーの立派な本。重量があるが向こうにおいてくれば帰りは軽くなる。

もう一つ準備したのは、ハングルで書かれたポケット版の簡素な朝鮮語の歌集である。1959年発行。国歌、労働歌、民謡など。これは、50年前に北朝鮮へ家族ともども帰還した朝鮮の友人が記念にくれたもの。その複製品を10冊ほど作ってカバンに入れた。懐かしがる人に出会うかもしれない、あの帰還事業があったことを知らない若い人たちの参考になろうかと思って心を込めて準備した。

関空からの航空機は、北朝鮮と隣接する遼寧省(りょうねいしょう)の首都瀋陽までは中国南方航空、そして、翌日は、ネットで書く人もいるが、世界で一番危険と言われる北朝鮮国営航空会社の高麗航空で飛んだ。無事ピョンヤン空港に降り、入国検査が終わったが、荷物の受取りには随分時間がかかった、なにせ貨物機に人を乗せて飛んで来たようなものだ。乗客のトランクが回ってくる前に、雑多な荷物がターンテーブルにひしめくのである。ダンボールで包んだ自動車のバンパー部品を思わせる荷物、箱やら容器やら。これらは中国からここへの急ぎの荷物なんだろう。自分たちのトランクは載せ忘れたのだろうか、いらいらする。やっと受け取って税関の荷物検査となった。

ここで思わぬ問題が。私の前の人のトランクにハングルの朝鮮語で打ち出した数枚の書類がひかかったようだ。次に通過しようとする私のトランクも全部開いて見せた。係員がコンピュータ!というから iPad と iPhone を見せたが問題なし。つぎにトランクの中で、切手を入れた袋を見つけて問題ありとなる。ブックス!という。古い朝鮮の出版物は問題なかろうとあの歌集を取り出すと、ほかにも探し始める。大切に包んで来たエス和のマタイの福音書も取り出して見せる、そしてエスペラントと日本語の切手の分厚い本を見せると別の場所へ移動させられた。制服姿の女性と男性がおり申し訳なさそうにこれは駄目だと言っているようだ。あれこれと私も頑張ったが、日本語を通訳する女性が呼ばれて来て、これらは人に渡してはいけません。これらは帰国のときまで預かりますと、丁寧に通訳した。これらはエスペラントであるから禁止だというのではない、日本語であれハングルであれ外国からの情報は持ち込みを阻止する決まりらしい。でも

この旅程では帰途は航空機ではなく中国の国境の町まで鉄道を利用するからこの空港へは来ないから困った、もう要らないから全部ここで処分してくれと言うと、ではトランクに入れて持ち帰ってくださいと言う。ホテルなどで見たり読んだりしても構わないが人には渡してはいけません。

先に通過した仲間はみんな随分待ちくたびれていた。ホテルへのバスの中で事情を話した。「そうは言われても現に持ち歩くのだから渡す機会があったらそうしたいが」と言ったが、「そうした後で問題となったら、これから付き添って案内してくれる旅行会社にも迷惑がかからないとも限らないし、月曜日の国際列車で国境の新義州駅で停車中の出国検査が面倒になるかもしれない」とい



大学教授の住む住宅を訪問

う言葉に引き下がった。それでは、せっかく用意してきたのだからと、歌集と古切手の袋は同行者にプレゼントとして受け取ってもらうことにした。この国では外からの情報は持ち込んではお国の事情である。

教会にも切手博物館にも個人宅や学校にも行ったが 何も置いてくることはできなかった。聖書も切手の本も再び持ち帰った。切手博物館は外国人旅行者歓迎の場所だ。日本の記念切手より仰々しい切手が並んでいる、博物館というより即売所だ。

帰りは、平壤駅からゆつくりと走る国際列車だ。国境の川、鴨緑江（おうりょくこう）の手前の新義州（シニジュ・Sinviĵuo）駅でパスポートの検査があったが、持ち帰るべく荷物のチェックがあるでもなし。無事、川を越えれば夜の中国丹東（たんとう・Dandong）駅。駅前には昼のように明るい、右手を挙げた毛沢東の大きな像が迎えてくれた。はい、ここからは国際インターネットが使えます、とでもいつているように。レストランでは料理が来るまでスマホを取り出して留守をした1週間の世界のニュースとメールをチェック。でも Facebook はまだ読めない、発信もできない。閑空に降りてから。

Esperanto という文字さえ置いてこれなかった。

果たして**北朝鮮のエスペラントの事情**はどうなっているのだろうか。Wikipedia に Esperanto-movado en Nord-Koreio というページがある。友人の助けも借りて訳してみた。金日成（Kim Il sun）に粛清されたエスペランティスト Pak Hunyung（朴憲永パク・ホニョン(1900-1956?)）のことも書かれている。朝鮮語のエスペラント辞典については次のページの三ツ石清の記事と符合すると思う。

朝鮮戦争直後、朝鮮の北部においてはエスペラント運動は多大な打撃を被った、それは、北朝鮮の元副首相でエスペラント運動の優れた運動家であった Pak Hunyung が共産主義の政党から追放されたからである。

彼は、1955年12月15日（ザメンホフ記念日）に、アメリカ帝国主義のスパイとして逮捕され死罪となった。処刑は12月20日だった模様だ。戦後の厳しい状況下では、ほかのエスペランティストたちはかつての国際的な活動を語ることなく沈黙を守らざるを得なかった。

北朝鮮のエスペラント運動は、1950年代の終わりには確かに復活している。（北）朝鮮エスペラント協会が1959年に設立された。会長は Song Bong Uk であり当時の北朝鮮大蔵大臣であった。その5年後1964年には350ページのエスペラント辞典が出版された。

その辞典の前書きによると、“エスペラント運動は労働党と政府の卓越した指導によって前進している”。Kim Hyungro が編纂したこの辞典には枠を設けて、北朝鮮政府のあらゆる部門、政党や社会機構のエスペラント名称が特記されている。

その後では、エスペラントと北朝鮮についての知られているものは、2000年に開設された朝鮮友好協会KFA のみである。その協会の簡潔なホームページがスペインに置かれており、数ページにわたって北朝鮮政府への路線支持がエスペラントで書かれている。

北朝鮮にはエスペランティストは存在し、友好協会に属して外国語の一つとしてエスペラントも使っている。分かっている限りではエスペラント界との関わりはあまりないがエスペラントを使って、例えば自国の観光や文化などを世界に伝えている。

北朝鮮のエスペラントについて、三ツ石清（1913-2009）が書いた1974年9月の“La Verda Kolombo”の記事を転載しておく。出処は、三ツ石清著「エスペラントは『私の大学』だ」2014 リバーロイ双書 9。そして1960年のLa Revuo Orienta にある記事も。

北京、ハノイにつづいて来年あたりに平壤からもサミデアーノを迎えたい

三ツ石清

大韓民国の京城<ソウル>や大邱<テグ>のサミデアーノたちと日本のエスペランチストとの交流は、最近なかなか盛んになって、とても良いことだ。日本エスペラント大会にも、少人数だが南鮮<韓国>からの人々が参加しているし、今年のゴールデンウィークにも、豊橋市のN君は、単独で、エスペラントの原書を Stafeto などの本を含めて、たくさん（20数冊）持って、交流して来た。私も、親しかった故人、大邱の青丘大学教授であった、洪亨義氏<1910 - 1968>のお墓参りに行きたいと思っている。（この洪さんは、戦前からのサミデアーノで、第二次大戦後の南鮮エスペラント運動の創始者である。）<青丘大学校は1967年まで現・嶺南大学校（ヨンナムだいがっこう）の前身。>

さて、北朝鮮の運動の話だが、現在どうなっているか、知らない。いま探してみると、1966年の朝鮮エスペラント協会（平壤）からの年賀状が出てきた。

そのアドレスは、

Korea Esperanto-Asocio Poŝtkesto 16 Pjengjano, Koreio (K.D.P.R.) とある。日付は '65年12月30日になっている。朝鮮文と英語の A happy New year! の下に Felician Novjaron! とある。また、このころ私に El Popola Ĉinio <エスペラント版・中国報道> のカレンダーに似たカレンダーを送って来た。こうしたことがこの前後3年ぐらい続いた。何故、私に年賀状が来たか。エスペラント・アカデミー会員であ

り、この“La Verda Kolombo”誌の会員でもある川崎直一教授（氏は朝鮮語も研究、習得している）が、Esperanto-Korea Vortaro が欲しくて、私に依頼の手紙を書いて来た。私は日朝協会名古屋支部にもこのことを話したが、結局、直接エス文で、平壤にあてて手紙を出した。まもなく辞典が5部送られてきた。それは、戦後の日本のあの「センカ」紙に似た紙に印刷された、一見、貧弱な小辞典であった。しかし、私は、その小辞典のなかに、朝鮮の同志のヒューマニチックな心意気がしのばれて、感激した。この辞典については、川崎直一教授が専門なので、これ以上は書かない。

そんなワケで、私あてに年賀状が来はじめたのだと思う。それから中国が、MEMから自然と脱けたのは、東京での世界エスペラント大会の2年ぐらい前だが、それまで、毎年1回は、Paco の中国版が出ていた。それと同じように、平壤からも2年に1回ぐらい、りっぱな“Paco”が出ていた。評論家の藤島宇内氏の『千里馬運動について』というルポルタージュなど、とても面白く読んだ。今日、MEMから、中国と朝鮮人民共和国が脱けているのは、まことに残念だ。しかし、現在の、MEM中央指導部が、ソ同盟べったりでは、この2国のMEM復帰は望むべくもないが。

余談になるが、最近、中華全国世界語協会（ĈEL）をUEA<世界エスペラント協会>に加入させようという動きがあるが、先日の訪中日本エスペランチスト代表団は、このことで、どれだけ成果をあげたか、団員の古関吉雄氏にでも聞いてみたい。（この訪中団を、日本のエスペランチストの代表団だとは言えない、という声もあるが、ここでは便宜的にそう書

く。)

現在の朝鮮エスペラント協会（平壤）が人的構成をもっているかどうか、おそらく変わっていると思うが、協会は、今日名目的にも存在しているはずだ。昨年（2014年）の亀岡での日本エスペラント大会の「EPC <El Popola Ĉinio> 読者の分科会」で、私は、中国の祝明義氏に、「ペキンとピョンヤンの間に、エスペランチストの交流はあるか」、「無い」との答えに、「大臣や将軍たちは、盛んに交流しているではないか、エスペランチストもしなくてはダメだ」と少し大声で言ってしまった。

読者諸君よ、今年の日本大会で、ハノイと北京<ペキン>からの代表を交えて、みんなで朝鮮民主主義人民共和国の人々との交流を話しあって欲しい。

(La Verda Kolombo 34, 1974.9)より抜粋

閉じられた国ではあるが入って行けば写真も撮れる、限られてはいるが移動も交流もできる、土産物だけではなく出版物を買うこともできる。にこやかに握手して話もできる。実際に出かけて行き、他人の目や耳を通してではなく自分の感覚と理性でここを見て体験して理解したらいい。新しい世界観が待っている。

山田義

副首相、科学院長ら出席して 北鮮(平壤)のザメンホフ祭

朝鮮エスペラント協会
(委員長は宋郁財政相)

東京で出ている「朝鮮通信」は、12月17日号で、「平壤16日発中央通信による」として、つぎのように、平壤のザメンホフ祭の模様を報道している。

「15日夜平壤の交通省俱樂部では、朝鮮エスペラント協会の主催で、国際語であるエスペラントの創始者ポーランドのルードヴィコ・ザメンホフの誕生百周年を記念した。この集いには、洪命燾副首相をはじめ科学院の白南雲院長、最高人民会議常任委員会克克魯副委員長、対外文化連絡委員会崔基哲副委員長ら、朝鮮エスペラント協会および各社会団体幹部たち、それに平壤市内のエスペラント協会会員や科学者、文化人、芸術家、青年学生たち多数が参加した。また朝鮮駐在ポーランド大使ユゼフ・ドレクリアス氏をはじめ各国大使館の文化関係者たちが招待された。集いでは朝鮮エスペラント協会委員長である宋鳳郁財政相がザメンホフの生涯と活動ならびにエスペラント運動の現状について報告した。参加者たちは、エスペラントで出版された図書の見聞を視察し、またエスペラントの録音を聞いた。

“La Revuo Orienta” 1960年2月号の記事



チルゴル礼拝堂

センター総会の案内

2017年4月1日（土）14時から

場所：センターにて

議題：2016年度の報告、2017年度の計画と新委員選出

センター事務所の今後

同封のハガキにて出欠をお知らせください

センターからのお知らせ

・名古屋エスペラントセンターのホームページのなかの、掲示板が使用できません。ご迷惑をおかけしています。原因を調査中です。早急に復旧したいと存じます。

新しい事務所を探してください

・名古屋エスペラントセンターは、現在の場所に2004年に移転してから、すでに13年目が経過致しました。これまでの会員のみなさんの支えを感謝します。しかし、諸般の事情により、現在の会費収入の推移では、現在の事務所を維持することが、年々厳しくなってきました。センターでは、その対処のひとつとして、家賃2万以下で10畳ほどの事務所を探そうということになりました。名古屋の外でもよろしいので、もし心当たりの情報がございましたら、センターかセンターの委員に情報をいただけたら、さいわいです。

センター会長、猪飼吉計

目 次

| | | |
|-------------------|------|----|
| 第66回東海エスペラント大会の案内 | | 1 |
| ザメンホフはいくつの言語ができたか | 猪飼吉計 | 2 |
| NEC) 主催のザメンホフ祭 | | 3 |
| 北朝鮮とエスペラント | 山田 義 | 4 |
| センター総会の案内 | | 10 |
| 編集者から | | 10 |

編集者から ▶▶

4月1日の総会の案内を載せるべく、当初発行予定を3月初めとしていましたが、それに間に合わず、ようやくお手元にお届けいたします。急ぎの編集のため、校正も不十分となってしまうかと思えます。（猪飼）